

平成 25 年度

豊田市男女共同参画社会に関する

意識調査報告書

【概要版】



調査の目的

平成 25 年度「豊田市男女共同参画社会に関する意識調査」は、平成 22 年 3 月に発行した「第 2 次とよた男女共同参画プラン」の計画期間終了（平成 26 年度）に伴い、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態等を調査し、過去の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けての施策展開の基礎とするとともに新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

調査の実施概要

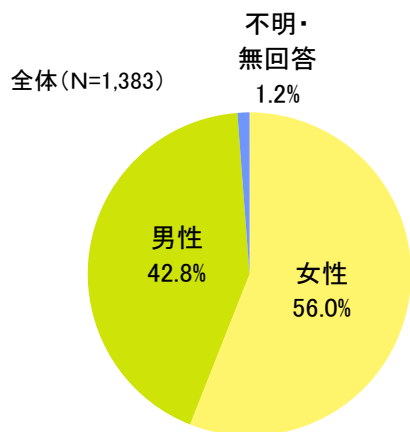
- 調査対象者 豊田市に居住している 20 歳以上の市民男女各 1,500 人を無作為に抽出
- 調査期間 平成 25 年 9 月 21 日から 10 月 11 日まで
- 回収方法 調査票による本人記入方式、郵送による配布、郵送による回収
- 回収結果 回収数 1,383（回収率 46.1%）

平成 26 年 3 月
豊 田 市

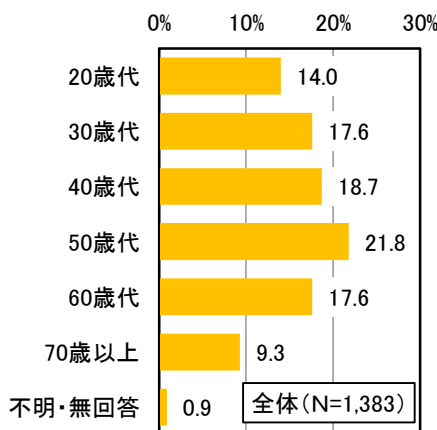
1 回答者の属性

回答者の性別は、女性がやや多くなっています。回答者の年齢は50歳代が最も多くなっています。また、回答者の74.1%が既婚、18.9%が未婚となっています。

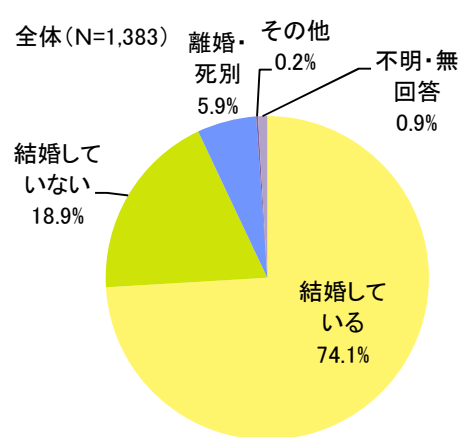
●回答者の性別



●回答者の年齢



●回答者の未婚・既婚の別

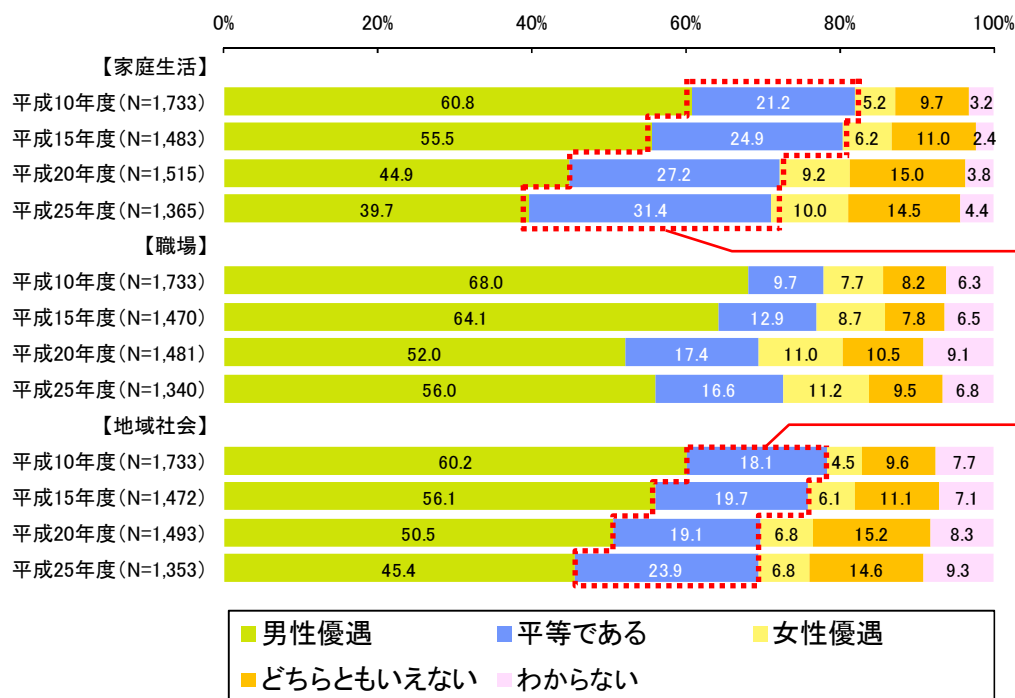


*グラフ中の「N」は、回答者総数を表しています。

2 男女の平等観について

市民に身近な、家庭生活や職場、地域社会における男女の平等観を経年でみると、「家庭生活」「地域社会」において『男性優遇』の割合が低下しており、年々、男女平等の実感が高まっているようです。しかし、職場においては、平成20年度の前回調査と比較して、今回の調査で『男性優遇』の割合が上昇しています。

●家庭生活、職場、地域社会における男女の平等観（経年比較）



「平等である」の割合が増えてきています。

※男性優遇（「男性の方が優遇されている」と「男性の方がやや優遇されている」の合算）、女性優遇（「女性の方が優遇されている」と「女性の方がやや優遇されている」の合算）として表しています。

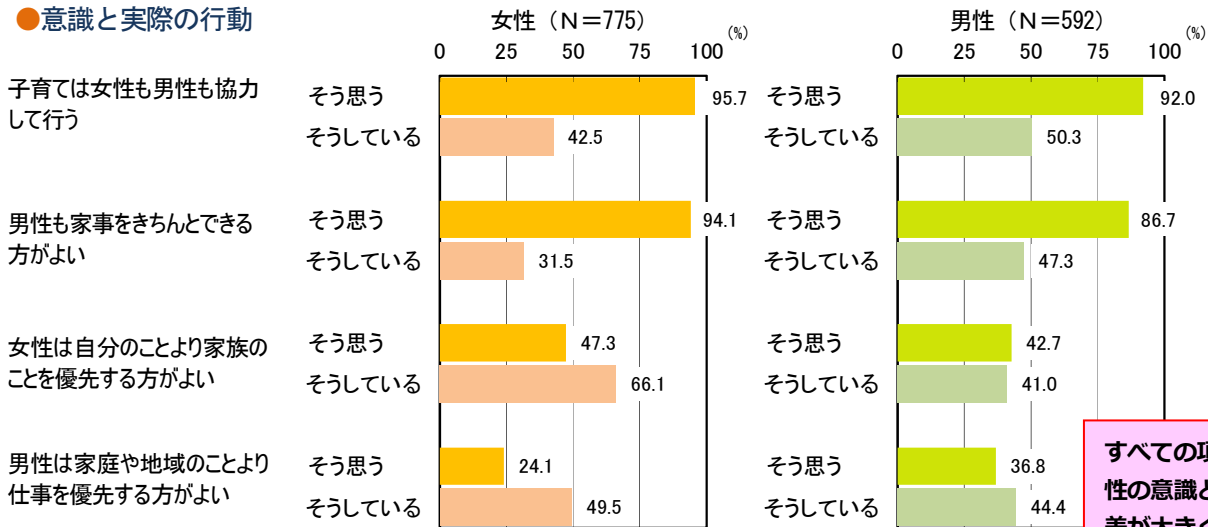
3

男女の関わり・役割分担について

男女の役割分担等についての考えと実態

男女の関わり・役割分担については、「子育ては女性も男性も協力して行う」「男性も家事をきちんとできる方がよい」で「そう思う」割合が高くなっています。子育てや家事については男性も参加した方がよいという意識がうかがえるものの、実際に「そうしている」割合は低くなっています。一方で、「女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい」では女性において意識より行動の割合が高く、家庭生活での固定的な性別の役割分担が多く残っているようです。多くの家庭で、男女ともに家事・育児等における男女共同参画の意識が浸透しているものの、実行に移すことができにくい状況にあることがうかがえます。

●意識と実際の行動



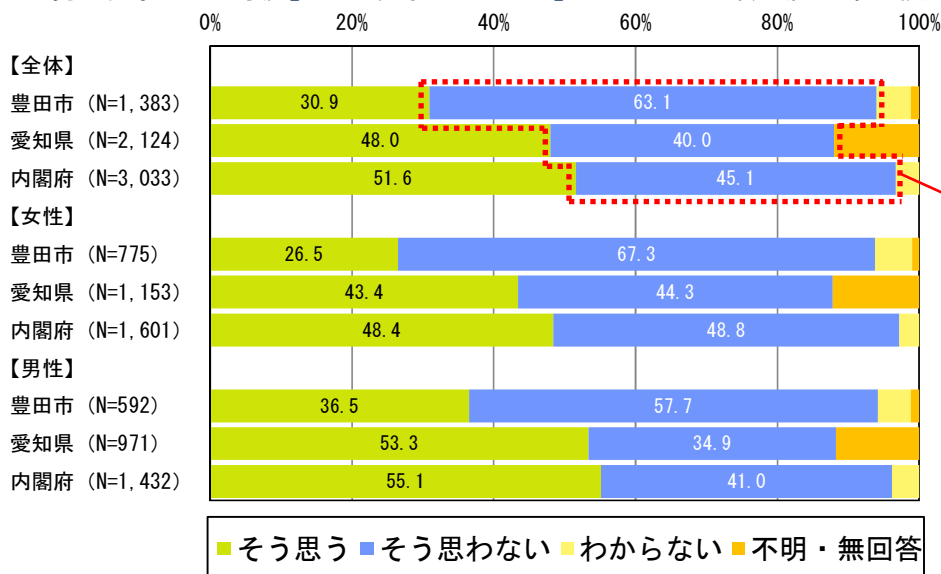
※そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合算）、そうしている（「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合算）として表しています。

すべての項目で女性の意識と行動の差が大きくなっています。

「男は仕事・女は家庭」という考えについて

豊田市では全国（内閣府調査）、愛知県と比較して、「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい」に反対する考え方が浸透しており、男女共同参画に関する意識は高い状況であると言えます。

●「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい」についての意識（国・県比較）



豊田市では全国や愛知県に比べて「そう思わない」割合が高くなっています。

※そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合算）、そう思わない（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合算）として表しています。

●内閣府：平成24年度「男女共同参画社会に関する世論調査」

●愛知県：平成20年度「男女共同参画意識に関する調査」

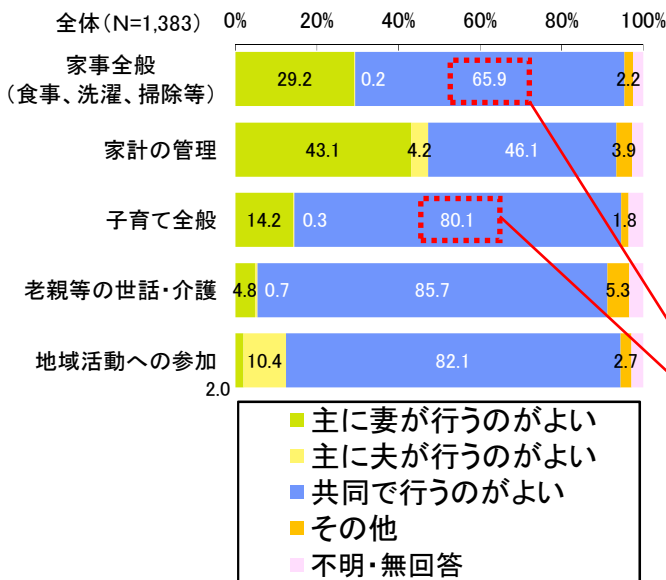
4

家庭における女・男のあり方について

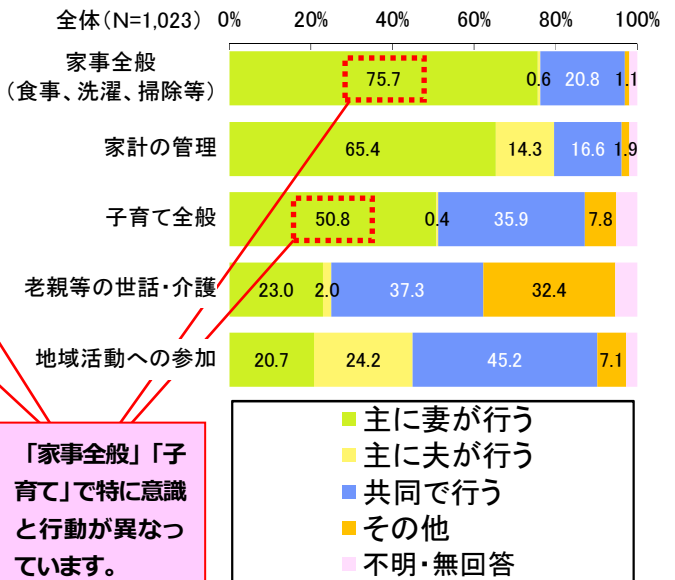
夫婦の役割分担についての考えと現実

夫婦の役割分担の考え方では、すべての項目で夫婦が「共同で行うのがよい」と考える人が多くなっていますが、実際は家事全般、家計の管理、子育て全般で「主に妻が行う」割合が高くなっています。家事や育児においては、まだ男女共同で行うものとはなっていません。

●家事等に対する役割分担の考え



●家事等に対する役割分担の実際の状況



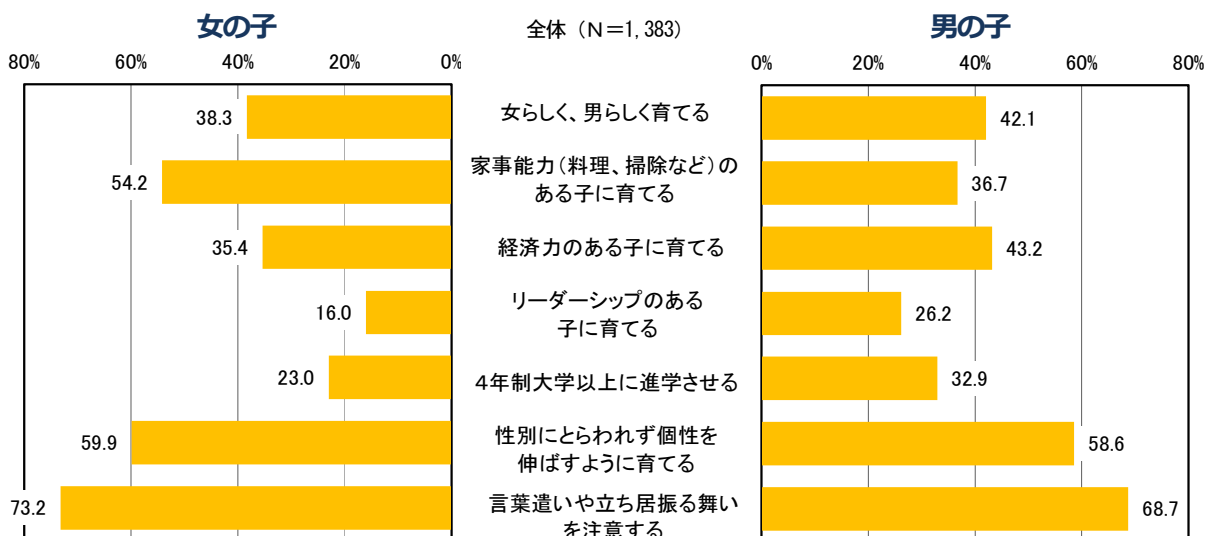
「家事全般」「子育て」で特に意識と行動が異なっています。

家庭における子どもの育て方

子どもの育て方では、子どもの性別に関わらず、「言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する」「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てる」ようにしているとの回答が多くなっています。しかし、「家事能力 (料理・掃除など) のある子に育てる」「リーダーシップのある子に育てる」「4年制大学以上に進学させる」「経済力のある子に育てる」では、女の子と男の子で違いがみられます。

子どもの育て方においても、無意識のうちに固定的な性別の役割分担が入り込んでいることがうかがえます。

●子どもの育て方 (「そうしている」割合)



5

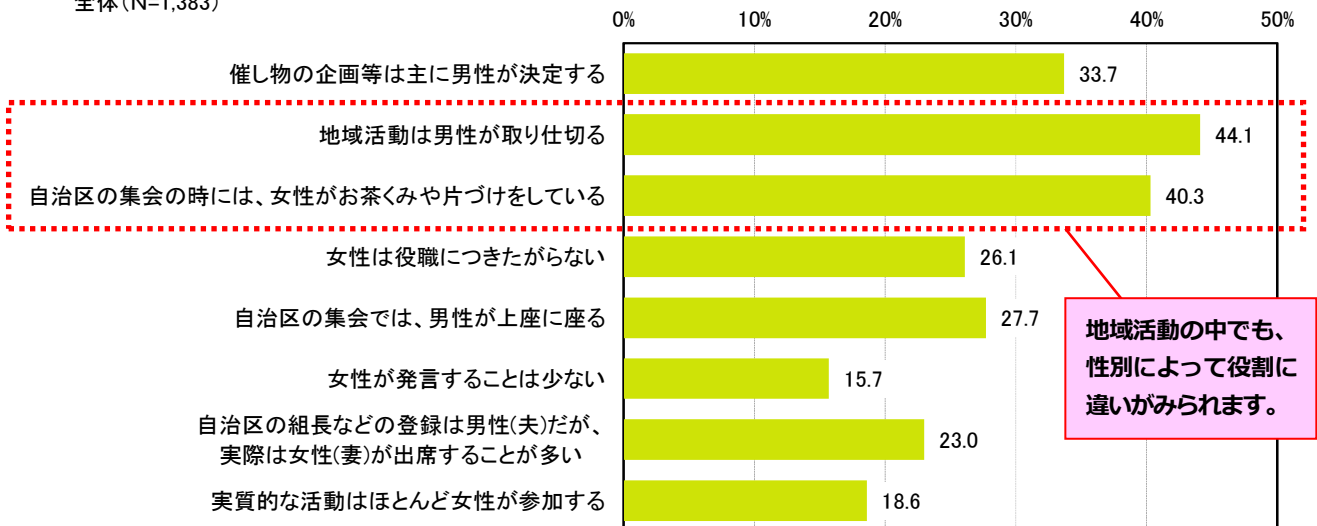
地域活動における男女の役割分担について

地域活動における男女共同参画の状況

地域活動における男女の役割については、「地域活動は男性が取り仕切る」「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」では、約4割が「そうしている」としており、地域活動においても固定的な性別の役割分担が残っています。

●地域活動の現状（「そうしている」割合）

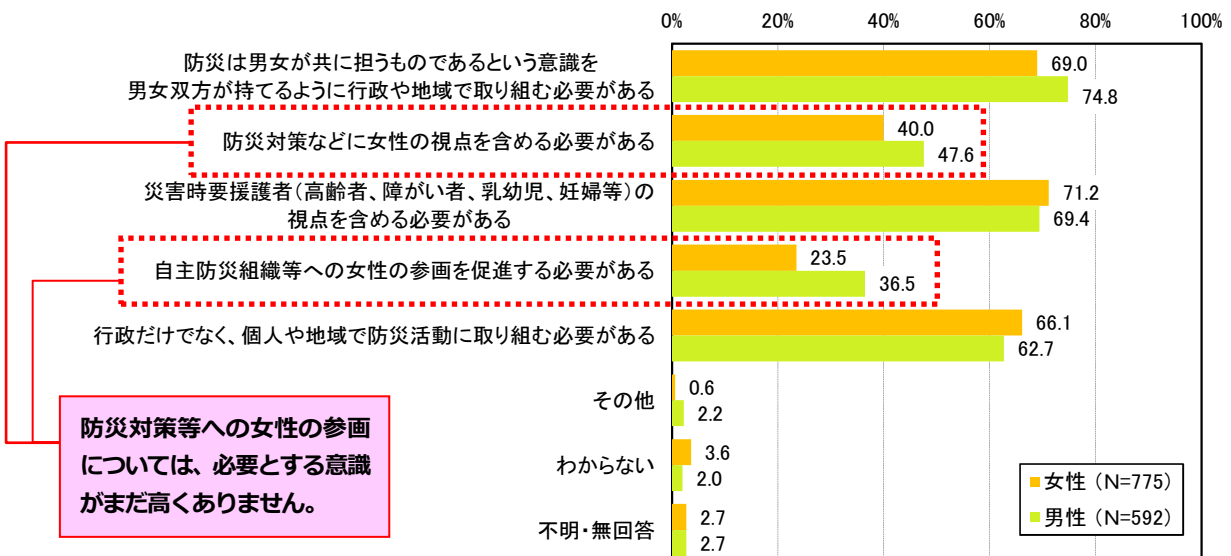
全体 (N=1,383)



男女共同参画の視点からの防災対策

地域の防災（災害対策）と男女共同参画についての考えでは、男女ともに「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の項目で割合が低くなっており、女性の視点からの防災対策への意識がまだ十分に浸透していない状況にあります。

●地域の防災活動の推進にあたっての考え [複数回答]



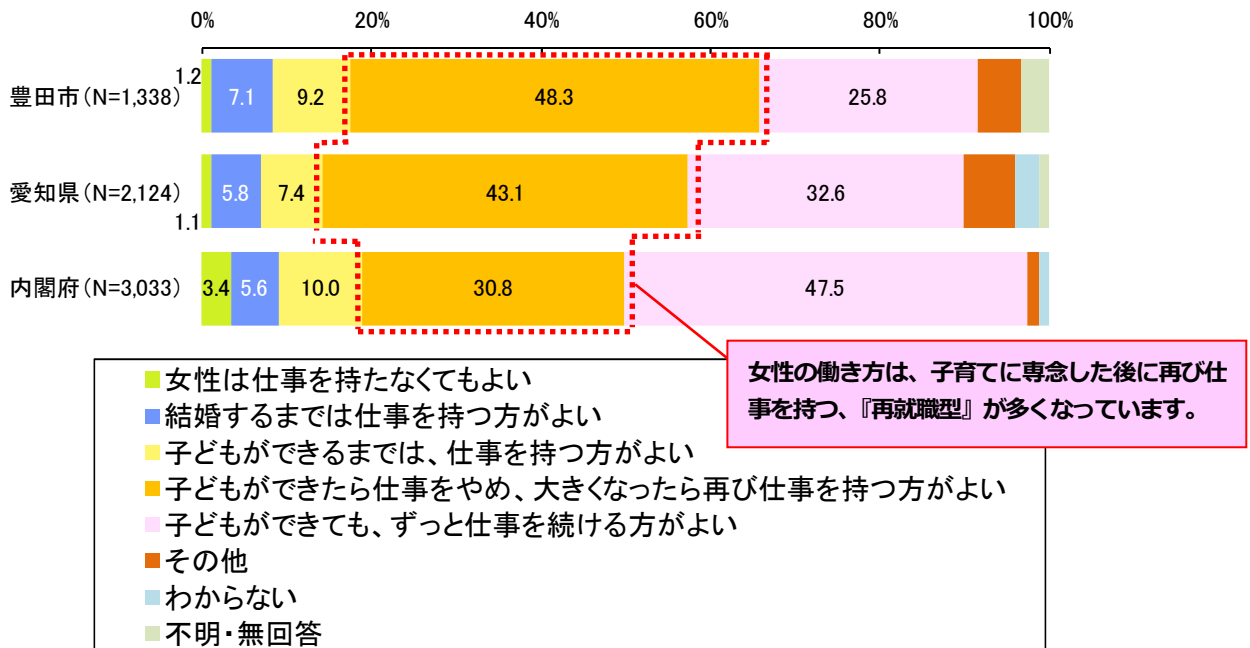
6

職場における男女の役割分担について

「女性の就労」に対する意識

女性が仕事を持つことについての考えでは、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が最も高くなっています。全国（内閣府調査）、愛知県と比較すると、豊田市では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」とする就労継続型の働き方を望む割合が低くなっています。

●女性が仕事を持つことについての考え

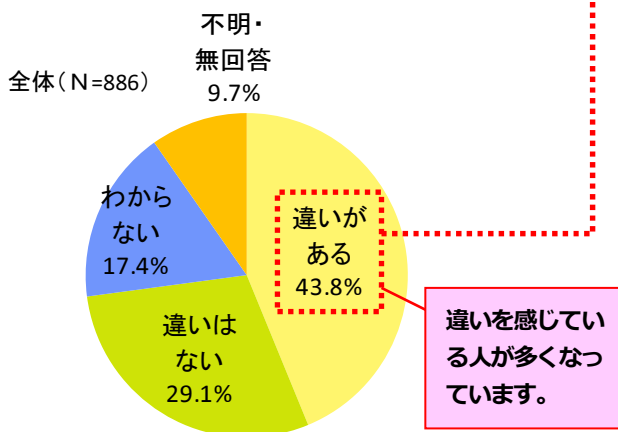


職場における男女の違いについて

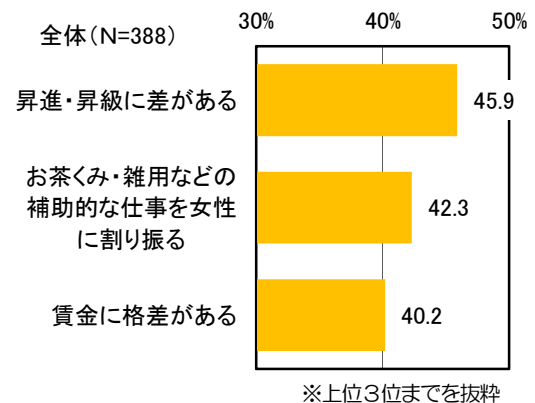
職場の性別による違いは、43.8%が「違いがある」としています。

違いの内容については、「昇進・昇級に差がある」「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」「賃金に格差がある」が高い割合となっており、未だ、職場において男女が平等になっているとは言いがたい状況です。

●職場で男女の違いがあるか



●違いの内容 [複数回答]



7

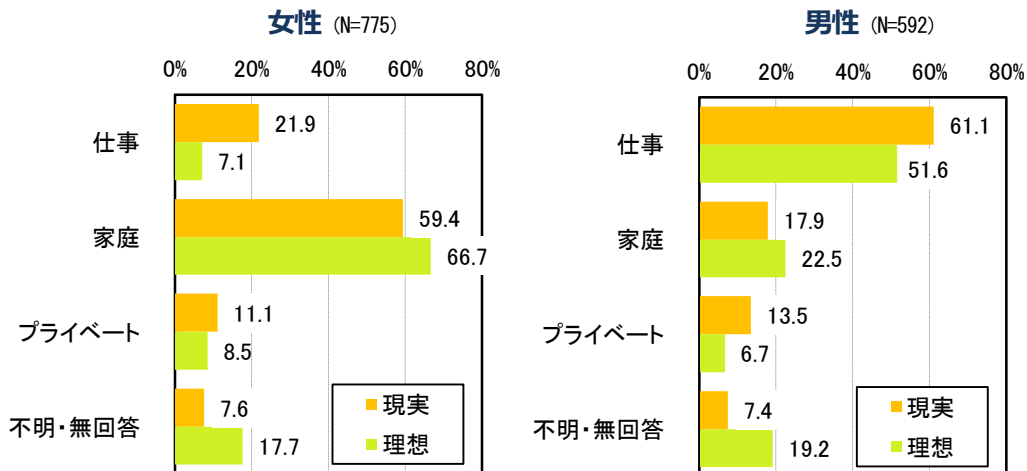
ワーク・ライフ・バランスについて

*ワーク・ライフ・バランスとは…老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることを指します。

生活の優先度について

生活の中の優先順位は、理想も現実も、男性は「仕事」が1番、女性は「家庭」が1番となっています。理想では優先したくても、現実で優先できていないものは、男女ともに「家庭」となっています。

●生活の中で1番目に優先したいもの（現実と理想）



8

男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について

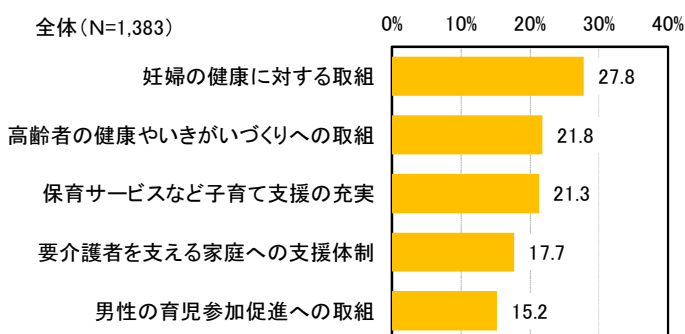
男女共同参画に関する取組の評価と重要度

豊田市の取組の評価については、「妊婦の健康に対する取組」「高齢者の健康やいきがいづくりへの取組」「保育サービスなど子育て支援の充実」で、「良い」とする割合がそれぞれ2割を超えており、母子保健、高齢者福祉、児童福祉分野での評価が高くなっています。

一方、「離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」「ワーク・ライフ・バランスの理解促進」「家庭における男性の家事・育児参加の促進」において「悪い」とする割合が比較的高く、女性の就労や、仕事と家庭の両立支援に関わるものが多くあがっています。

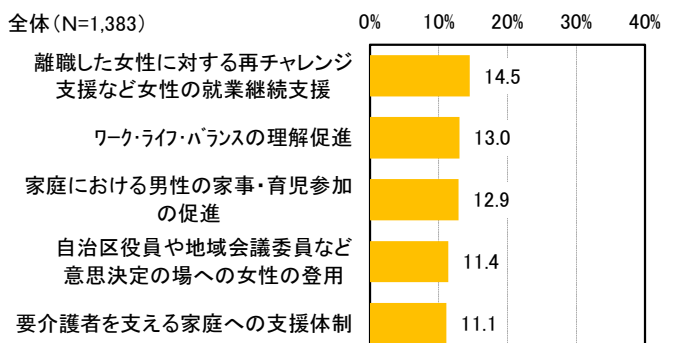
また、豊田市の男女共同参画社会の実現において重要だと思う取組では、「要介護者を支える家庭への支援体制」「保育サービスなど子育て支援の充実」が高い割合となっており、仕事と家庭生活を支える福祉関連の施策において、重要度が高くなっていることがわかります。

●「良い」とする評価が多かった取組 [複数回答]



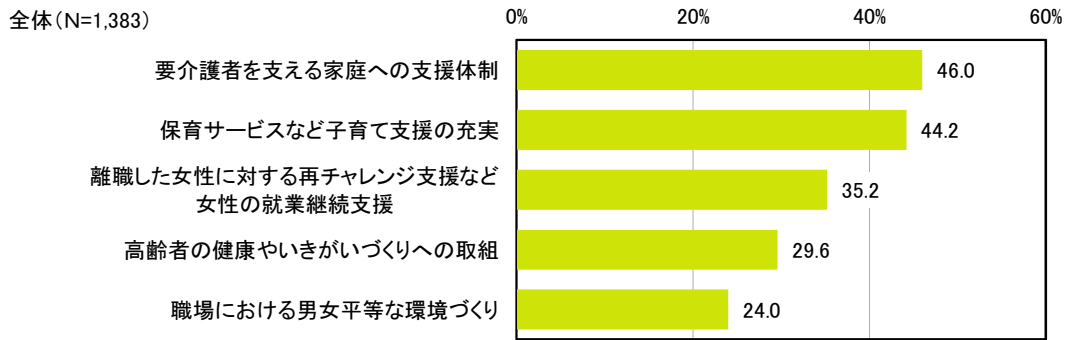
※上位5位までを抜粋

●「悪い」とする評価が多かった取組 [複数回答]



※上位5位までを抜粋

●男女共同参画の実現で重要な取組 [複数回答]



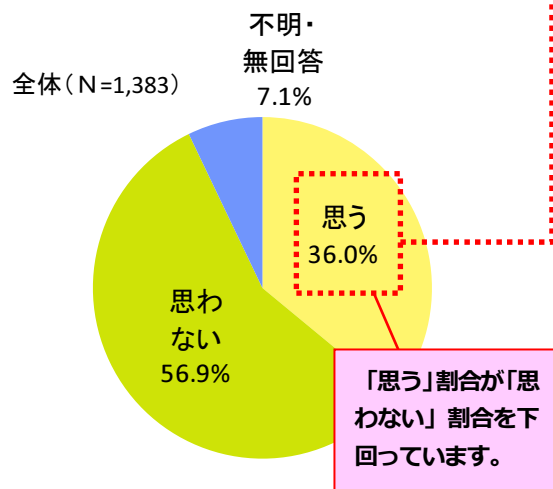
※上位5位までを抜粋

男女共同参画への理解の深まりについて

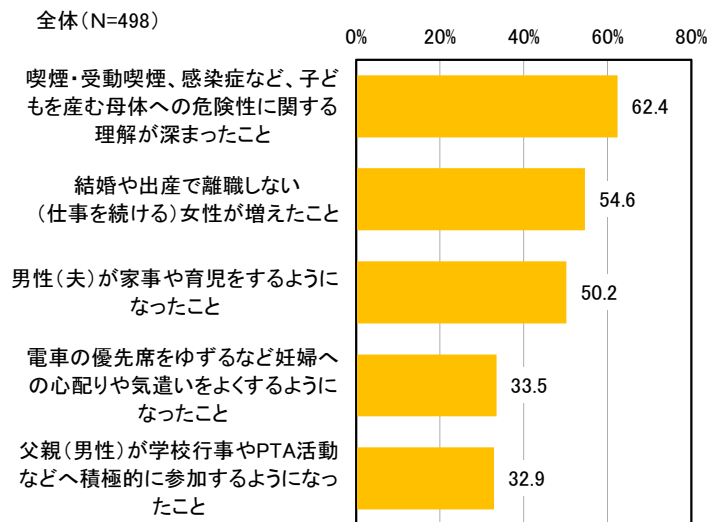
この5年間で、男女共同参画についての理解が深まったと思うかについては、「思わない」割合が56.9%となっています。

男女共同参画についての理解が深まったと感じる人に、その理由をたずねたところ、「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」が62.4%と最も高く、次いで「結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと」「男性(夫)が家事や育児をするようになったこと」が続いています。

●男女共同参画に関する理解が深まったか



●理解が深まったと思う内容 [複数回答]



※上位5位までを抜粋

意識調査結果からわかる豊田市の現状

- 豊田市の男女共同参画に対する市民の意識は全国と比較して高いものの、家庭・地域などでは固定的な性別の役割分担に基づく行動をとっていることが多く、理想と現実でギャップがあります。
- 男女ともに約半数が、女性の望ましい働き方を「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と考えています。結婚や出産を機に仕事を離れ、家事や育児に専念したいという意向を持つ女性が多い傾向にあります。
- 豊田市の取組については、「悪い」と評価された項目と今後重要だと思う項目とは重なるものも多く、なかでも「要介護者を支える家庭への支援体制」や「女性の就業継続支援」などが市民から求められています。

平成25年度 豊田市男女共同参画社会に関する意識調査報告書【概要版】

発行年月 平成26年3月
〒471-0034

発行/豊田市 社会部 共働推進室 生涯学習課 とよた男女共同参画センター
豊田市小坂本町1-25 豊田産業文化センター2階

TEL : 0565(31)7780 FAX : 0565(31)3270